

令和5年度第2回学校運営協議会会議録

1 開会

2 校長あいさつ

3 校舎見学

4 議長選出について

議長 : PTA会長 齋藤 芳里 様

5 報告

本校の教育活動の現状について（中間報告）

- (1) 教務 (2) 進路指導 (3) 生徒指導 (4) 総務 (5) 厚生
(6) 教育支援相談 (7) その他

委員 : 本日授業を見せていただいたが、生徒たちが落ち着いてしっかり取り組んでいる印象を受けた。また、授業を見学している際に挨拶や会釈をしてくれて所作や普段の生活態度面についてよく指導されていると感じた。朝の登校時に会った際でも気持ちのよい挨拶をしてくれた。非常にしっかりしていると思った。これから電気関係の学習に合わせて本校での出前授業をお願いしようと考えている。

委員 : 今生徒数は少ないが、部活動の成果は大変立派である。先生方の指導のおかげだ。現在卒業生は 23,000 人だが、今後さらに数多くの生徒を入学させてほしい。

委員 : おかげさまでラグビー部が全国大会に出場することとなった。さらに、皆様のご協力をお願いしたい。バスケットボール部も惜しくも2位であったが、よい試合をしたと思う。来年に期待したい。

委員 : 中学校側から見ると、卒業生が立派に育っているという印象を持った。高校1年生であっても一社会人の雰囲気を出している。これも黒工で鍛えていただいているのおかげだと感じた。その反面、今後のことで危惧していることがある。それは、来年度から推薦入試がなくなり、特色入試という形で実施される中で黒工の魅力をどのように発信していくかが求められる。体験入学や学校説明会だけでは中学生に対するPRが弱い。その点の工夫が今後必要となってくる。

委員 : 青年部が黒工の土木科の生徒を対象に講習会や就職の模擬面接、インターンシップを行っている。黒工祭では、建設業界でどのようなことをやっているかについて皆様にお知らせできる「企業ブース」という場を設けていただき、感謝している。

委員 : 日頃の校長先生をはじめ教職員の皆様の熱心なご指導により、市内の企業に多くのものづくり人材を輩出していただき感謝申し上げます。データによると、高校生までに地元の企業を認識している子と認識していない子とで比較すると認識している子が大学卒業後、地元に戻ってくる割合は7割近くあるが、逆に認識していない子に関しては、地元に戻らず、そのまま首都圏で就職してしまう割合が7割である。黒工で行っている企業見学会や黒工祭での企業ブースの設置、地域産業講座などの取組は地元に戻ってくる割合を増やす有効的な対策だと考えている。北上市としても全面的に協力したいので今後ともよろしくお願いしたい。

委員 : 黒工祭ではPTAとしてお母さん方に協力いただいた。お母さん方とコミュニケーションをとっていると、たくさんの意見をいただいたり、お子さんの部活動の様子をうかがったりすることができる良い機会であった。
その中で、今年度の黒工ホームページ・Noteの更新をしてほしいという意見をいただいた。
親として気になることがある。黒工では自転車のヘルメット着用は任意となっているが、これから先社会で義務化する前に生徒がヘルメットを着用するよう対策をとってほしい。黒工祭のパンフレットだが、黒工の技術をさらに広めるような、黒工祭に来校したくなるようなものを作成してほしい。

6 その他

委員 : 資料1ページにnoteのフォロワー数が「55」とあるが、他校と比較してどうであるか。

学校 : 他校より少ない。noteを一番見てほしい人たちが認知していない。県にも働きかけているが、なかなか動いてくれない。noteの存在を周知するには学校独自で行う必要がある。

委員 : 同じく資料1ページ「オ 中学校教員対象説明会」で出さ

れた意見を参考に今後、改善する予定があるのか。(生徒数を増やすことにつながる意見である)

学校 : 実施できるように可能な限り調整していきたい。

委員 : 報告である。今年度の「北上みちのく芸能まつり」実行委員会の全体会に出席した。その会議資料の中には、学生ボランティア、特に黒工生の協力があって非常に助かったという声が多く聞かれたという報告があった。先ほど校長先生にお聞きしたが、ボランティア活動をされている部活の皆さんの中から参加したとのこと。地域に貢献したり、祭りに参加したりすることで地域の皆さんに黒工を認知していただくことは必要なことである。非常にうれしいと感じた。学校内でも皆さんにこの件について周知していただきたい。

7 閉会